

【シンポジウム】

COVID-19 と病院建築

【座 長】

笈淳夫 先生（工学院大学）

【シンポジスト（敬称略）】

COVID-19 と建築計画

中山茂樹 先生（千葉大学）

COVID-19 と病院建築 病院の空調換気設備と COVID-19 クラスタ感染

林基哉 先生（北海道大学）

COVID-19 と病院感染管理

坂本史衣 先生（聖路加国際病院）

〔企画の趣旨〕

COVID-19 の感染対策においては、換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・間近で会話や発声をする密接場面の、いわゆる「三密」を避けることが推奨された。なかでも「密閉」は、人間の行動様式ではなく建物の性能であるため、オフィスや飲食店、商業施設など多数の人のびとが利用する建物での換気・空調についての関心が高まった。ところが病院は、建築物衛生法に定める特定建築物ではないため、室内空気質の実態が明らかでない現状がある。

それでは、COVID-19 感染者の治療・看護にあたる病院では、どのような環境設定を行えばよいのだろうか。上述の換気についてのみならず、動線計画やゾーニング設定、病棟・外来・救急など機能が異なる各部門の建築設備と管理運営は、どのような現状であり、また望ましい姿はどのようなものだろうか。いくつかの病院では、仮設病棟や専用病院という方法で COVID-19 対応を行ったが、建物整備とマンパワー確保のアンバランスも指摘されている。

わが国の多くの病院は COVID-19 専用病院ではなく、他の傷病の患者にも対応しているが、行われている対応策の知見はそれほど共有されていないように思われる。

本シンポジウムでは、COVID-19 に立ち向かう病院における、患者のための空間、スタッフのための空間のあり方について、建築計画、環境工学、病院管理それぞれの視点から報告いただき、COVID-19 に対応する病院建築のあり方について考える機会とした。